

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079800209
法人名	(有) のぞみの里
事業所名	グループホーム ゆうげん荘
所在地	福岡県田川郡福智町弁城3719番地3 (電話) 0947-22-6555

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月25日

【情報提供票より】 (平成19年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 6月 1日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	6 人	常勤	4人,	非常勤	2人,	常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円	
敷 金	有 (円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,167 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年10月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	70 歳	最高	84 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人和光会 一本松病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の周辺は、雑木林と民家がある静かな環境で、平屋建て全館床暖房の事業所である。現在、更に1ユニットを建設予定で、事業所に隣接した雑木林を造成中である。事業所までは細い坂道であるが、上の方にも住宅地やパイパスがあるため、周辺は住民が往来している。職員は利用者を自分自身の親と同じように敬い、心を込めて介護していくこととの認識を持っている。職員は利用者の話を聞いたり、表情等から利用者の希望や要望を把握するようにしている。職員の介護はさり気なく行われ、利用者は穏やかに過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	前回評価での改善課題については、管理者と職員等で話し合い、マニュアルの整備・記録の仕方、事業所便りの作成、衛生管理、家族等へ定期的に連絡する等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	自己評価は、管理者・計画担当者が検討して作成している。全職員で評価の意義や目的を理解し、協議する等して自己評価に取り組んでほしい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議を定期的開催している。事業所のサービス内容や取り組みの報告を行い、委員から意見を聴取している。委員の紹介で、毎月軽体操ボランティアが訪問する等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)	意見箱を設置している。家族等の来訪時や電話連絡時に意見等を聴くように努めている。また、事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を繰り返し説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	月1回、保育園、軽体操クラブ等の訪問を受入れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくりあげ、利用者のケアに努めているが、地域密着型サービスの視点が加わっていない。	○	全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、ミーティング時に理念を唱和し、実践に向けて日々取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月1回、保育園、軽体操クラブ等の訪問を受入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者・計画担当者が検討して作成している。前回評価での改善課題については、管理者と職員等で話し合い、マニュアルの整備・記録の仕方、事業所便りの作成、衛生管理、家族等へ定期的に連絡する等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	○	全職員で評価の意義や目的を理解し、協議する等して自己評価に取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行っている。事業所のサービス内容や取り組みの報告を行い、委員から意見を聴取している。委員の紹介で、毎月軽体操ボランティアが訪問する等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のみの連携に留まっている。	○	事業所が抱えている問題の相談や現状を報告する機会をつくる等し、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでほしい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関する資料を作成している。	○	制度に関する研修の機会を持ち、利用者や家族への情報提供ができるよう、全職員の制度への理解を深めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、写真付の事業所便りに日々の暮らしぶりを記入している。また、金銭管理については、月1回、金銭出納のコピー及び領収書原本を、家族等へ郵送している。緊急時には、家族等へ電話で状況報告や連絡を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族等の来訪時や電話連絡時に意見等を聴くように努めている。また、事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を繰り返し説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員に、日常的に報告・連絡・相談をするように伝え、人間関係や悩み事等を聞くよう努めている。やむを得ない離職等については、利用者へのダメージが少ないように、職員で業務を共有している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用時に年齢、性別を理由に採用対象から排除しないようにしている。配置・昇進、定年・退職等において、差別なく誰もが安心して働ける職場環境を目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>理念である「笑顔・愛情・尊重」に沿って、日常のケアを支援している。</p>	○	<p>内部または外部研修への参加の機会を設けて、人権教育を実施してほしい。また、研修記録を残し、資料等は職員がいつでも確認出来るように事業所で保管してほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は職員が日常的に学ぶことを推進し、職員が外部研修を受ける機会がある。また、全職員が研修内容を共有できるようミーティング時に報告する機会がある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内及び全国組織の同業者ネットワークに加入している。管理者が福祉祭り等のイベントに出席することもある。</p>	○	<p>加入しているネットワークを通じ、管理者だけでなく、職員も含めた同業者と交流する機会を持ち、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしてほしい。</p>
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、本人・家族等が見学を行い、また、職員が自宅や病院を訪問することもある。本人が事業所の雰囲気に慣れるまで、タイミングを見て声かけする等し、徐々に馴染めるよう努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や洗濯等を共に行い、職員が知らない生活の技を利用者から教えてもらう場面がある。職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、思いや希望、意向等の把握に努めている。意思表示が困難な利用者については、家族等から情報を得るようにし、また利用者の言動等から真意を推し測ったりして、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人・家族等の希望等及び職員の意見を反映しながら、一人ひとりの現状にそった個別具体的な計画を作成している。また、本人から介護計画を了承した署名と押印をもらっている。家族には電話等で説明し、同意を得ている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に1回及び利用者の状態の変化時に、随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した場合は、職員が毎日見舞いに行き、早期退院に向けて医療機関及び家族と連絡を密にしている。また、医療処置が必要な場合は、通院の付き添いや送迎等は事業所に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医での受診等、希望にそった受診支援を行っている。基本的に職員が代行するように家族等と受診時の通院介助の方法、情報の伝達方法について話し合い、合意している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、入居時に家族へ事業所の方針・対応を説明している。また、折に触れ、家族と医療関係者・職員等で話し合い、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉かけや対応に配慮している。記録等の個人情報の取り扱いについては、職員採用時及びミーティング時に職員の意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の気持ちを尊重して支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に食事の準備や片付けを行っている。職員と利用者が同じテーブルで同じ物を食べ、楽しく食事ができるよう雰囲気づくりに配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望にそって入浴支援している。入浴拒否する利用者に対しては、言葉かけやタイミングを計りながら、入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、料理や雑巾づくり等、利用者が得意分野で力を発揮できる場面を支援し、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調、希望に応じて、ほぼ毎日の散歩や週1回の買い物、月1回のドライブ等、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠していない。職員は、玄関に設置したセンサーに頼らず利用者の外出傾向を把握し、見守りができている。また、近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。年2回、事業所独自及び消防署の協力を得て避難訓練を実施している。	○	今後はいざという時のために、事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常食や備品の準備をしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養摂取量及び水分摂取量の記録が、全利用者分ある。献立は、利用者の状態や嗜好・要望に合わせて職員が作成している。</p>	○	<p>最低年1回、栄養士等による専門的アドバイスやチェックを受け、利用者の健康管理に努めてほしい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下にソファを設置し、利用者手作りの作品や人形等を飾る等して、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。職員の声の大きさはちょうどよく、カーテンで光の強さに配慮している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は、家族写真・人形・使い慣れた机や椅子等、利用者の好みや馴染みの物等を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。